

第6回 武蔵野市文化振興基本方針策定委員会 議事要録

○日時	平成30年1月16日（火）午後7時～9時
○場所	かたらいの道・市民スペース
○出席委員	◎小林真理、宮崎倉太郎、小川希、○酒井陽子、高荻宏、花柳美輝風、青木稔、花田吉隆（◎委員長、○副委員長）
○傍聴者	なし
○事務局	市民部市民活動担当部長、市民部市民活動推進課長、（公財）文化事業団常務理事、吉祥寺美術館館長 他

1 議事

(1) 方針の柱（案）について

事務局より資料1「武蔵野市文化振興基本方針（仮称）中間まとめ（案）」を用いて説明を行った。

【I 文化振興基本方針とは】

【委員】 構成としてはよいと思う。書かれている内容もそのとおりだと思うが、「多様な文化に触れる武蔵野市の環境」という言葉が使われているが、「環境」とはどういったものかと疑問に思った。市内で触れられるということだとは思うが、都心からのアクセスがよいということにも捉えられかねない。

【委員長】 基本的には武蔵野市内の環境のことと理解してよいか。

【事務局】 そのように理解いただきたい。誤解がない文章にしたい。

【委員】 「市内にいながらにして触れられる」というような書きぶりがよいと思う。具体的な事例として武蔵野プレイスが挙げられているが、本当に人の流れを変えたのか。

【委員長】 来館者数を具体的に記載してはどうか。

【委員】 武蔵野プレイスが開館したからにぎわったと言えるかどうか、よく確認した方がよい。また、吉祥寺シアターの建設目的を、周辺地域の環境浄化と明記してしまってもよいのか。

【事務局】 ご指摘の点は配慮したい。

【委員】 国の動向は記載内容がやや古い。最新の状況を捉えるようにした方がよい。

【委員】 この基本方針は、問題や新しい取組があったときに立ち返るものだと理解してよいか。

【事務局】 そのように理解してもらいたい。

- 【委員】 そうだとすると、そもそも「文化とは何か」という定義がないといけないのではないか。それがないと間違った方向に進んでしまう可能性があるのではないか。
- 【委員】 文化を考える意味は何かと考えることも必要だろう。この方針の目的が何かということが示されるべきだと思う。
- 「文化を振興する」と「文化で振興する」はよいと思うが、よく分からないところもある。「文化を振興する」は文化が最終目的となるが、後者は文化が手段になっている。前者は文化事業団の仕事だと思うが、目的を考えるのであれば、後者になるのだろう。文化は手段なのだが、「文化で振興する」ことはそれ自体が文化になっているのだろう。そうすると「文化を振興する」と「文化で振興する」は入れ子になっているので、2つに分類できることなのかと思った。
- 【副委員長】 武蔵野市の方針というよりも、文化事業団の方針のように感じた。多様な文化施設があるが、活用できていなかったこと、その施設を管理している文化事業団についても今まで掘り下げて議論することはなかったことについて、改めて話をしていくということであれば、理解ができる。もしくは、文化施設は充実していたが、ソフトが十分ではなかったもので、これから考えていくということが書かれていれば、市民も納得できるだろう。
- 本市における具体的事例については、施設の記載の並び順の基準や文章が不明確で分かりづらい。
- 【委員】 「文化を振興する」「文化で振興する」については図で表すと分かりやすいと思う。
- 吉祥寺シアターの設置目的を環境浄化と書いてしまうと、吉祥寺東部に住んでいる人はあまりよい気がしないのではないか、考慮した方がよいと思う。
- 具体例については、どのような成果があったのかも示してもらいたいと思う。武蔵野プレイスも、青少年が利用していることを成果として示してもよいと思う。
- 【委員】 武蔵野市として考えていることなのはわかるが、全体としてどこかで読んだことのある文章が続くような気がした。
- 【委員】 「芸術」という言葉を敢えて避けているように感じたが、そうするのであれば、文化の定義をした方がよいと思う。「文化」という言葉を使うのであれば生活文化なども含めた方がよいと思う。「文化」と「芸術」という言葉を定義しないと曖昧なものになってしまうのではないか。
- 【委員長】 先ほど図で示した方がよいという意見があったが、自分も必要だと思う。

何が欠けていて、今後何をすべきなのかが分かる絵図が必要だと思う。

【委員】 「芸術」という言葉を使わなかった意図は何か。使いたくないのかと思ったが、後半では「文化」と「芸術」を混合して用いている。

【委員長】 整理が必要だと思っている。

【Ⅱ 「武蔵野市の文化」について】

【委員】 書かれている内容が第1章と重複しているように感じる。その上に、武蔵野市において文化的な体験を提供してきた主体が文化事業団だけのようになってしまう。それが行政全体を代表するわけでもないし、武蔵野市を代表するわけでもないと思う。

【委員】 自分の感覚として武蔵野市に文化はないと感じている。普段活動していて、文化的なことを求めているまちだと思えない。バウシアターすらなくなってしまった。個々人ががんばっている人はいるかもしれないが、それを取り上げるよりも、行政として行き届いていないことを示した方がよいのではないか。文化がないというところから話を始めてもよいのではないか。

【委員】 「文化的な回遊性」において書かれていることはもともとだと思う。武蔵野市の魅力だと思う。市民アンケートをみると、緑は大きな位置づけとなっているようだ。ここで示すべきは文化的な雰囲気ではないか。文化だけでなく、緑や商業も相乗作用があって、武蔵野市の文化的な雰囲気ができあがっているということを書くべきだろう。その要素のひとつが市民文化会館の事業なのだろう。

【副委員長】 「雑多」という言葉は敢えて使っているのかもしれないが、あまりにネガティブな表現ではないか。「多様」の方が適切だと思う。闇市の名残を残すところは「雑多」という言葉を使えばよいと思うが、まち全体が「雑多」というのは理解が得られないだろう。

多様な人々が集まってきたことは自分も意見してきたところで、その点は「多様」という言葉で表現すべきであり、「雑多」という言葉で表現する面と組み合わせる方がよい。

【委員長】 自分も「雑多」という言葉は引がかかった。また、ハモニカ横丁は闇市そのまま残っているように書かれているが、関係者がまちづくりに活かすためにがんばって残してきた部分だ。その点については評価した上で、展開した方がよいと思う。

【委員】 自分は武蔵野市民ではないが、その立場からみると武蔵野市はあこがれの対象であり、単なる住宅地ではないはずだ。言葉の問題だと思うが、市民にとって納得できるものではないだろう。

「文化で振興する」に関するところだと思うが、「文化の活用」という書きぶりは疑問だ。「活用」という言葉では、文化がツールになると思うので疑問を持ってしまう。

【委員】 市民文化会館は大きな公演しかできないので、自分たちは武蔵野公会堂を利用するのだが、バリアフリーがなされておらず、高齢者は使いにくい。そのような場しか持てないのは、文化的とは思えない。ハモニカ横丁も吉祥寺も、開発されているまちという印象がある。まったく文化的な印象がない。

【委員】 移住した人たちがつくったまちと書かれているが、その前に人はいなかったのかとも思う。

2つ目の「文化的な回遊性」についてだが、武蔵野市は3つの駅があり、中心がないことがまちづくりを難しくしていると感じている。ここでは吉祥寺のことが中心に書かれているが、市民に向けて発信するのであれば、3つの駅があり、それぞれの特性があることを明示した方がよいのではないか。

【副委員長】 長期計画では、そのように書かれているのではないか。

【事務局】 長期計画は駅ごとにまちづくりという形で書かれることも多い。

【委員】 文化政策には、ブランド化という話も出てくる。武蔵野市であれば、観光と関連づけた取組ができると思う。そのときブランドとして通用するのは吉祥寺だろう。名前もブランド化しているので、観光という側面で考えていくのであれば吉祥寺を売ることはよいと思う。

【委員長】 全国的なブランドとなっている吉祥寺を重視しすぎるとバランスが取れなくなり難しい。繰り返し指摘されているように、吉祥寺は外からみたイメージと市民が感じる実態に差があるのも事実なのだろう。それを文章で示すことができるとよいと思う。それは吉祥寺だけでなく、文化行政の実態にも関わることだと思うので、施設や行政のあり方も触れられるとよいと思う。

【Ⅲ 文化振興によって実現したい武蔵野市の姿 Ⅳ 5つの方針】

【委員】 文化振興で実現したい武蔵野市の姿は、「文化を振興する」と「文化で振興する」の2つの分類に関連づけて書いた方がよい。さらにコミュニティセンターについても言及した方がよいと思う。

5つの方針については、方針4と方針5が非常に似ていると思うので、整理した方がよいだろう。芸術の振興という話と、「武蔵野市の文化」の発展という話のつながりが見えづらいと思う。

【委員】 「文化」と「芸術」とは異なるはずなのに、混合しているために抽象的

になっている。それでは、何かあったときに立ち返るための方針としては機能しないのではないか。「文化」と「芸術」という言葉を意識的に使い分けた方がよいと思う。

【委員】 「自己実現ができるまち」は、文化に触れるだけでは十分ではなく、文化活動に参加して創作していくという側面もあるので、それを明示してもらいたい。鑑賞だけでなく、参加するということが重要だということは大切にしてもらいたい。

市民や市の伝統的文化に関する言及はあるが、これからの武蔵野市がどうなるかということが言及されていないのではないか。武蔵野市が文化的な香りに噓せ返るようなまちになり、そして市民が豊かに過ごすことができるまちになるという最終的な目的を明記してもらいたい。

5つの方針についても同じことが言える。武蔵野市の文化的なダイナミズムについて書かれてないように思う。武蔵野市が文化的にどうあるべきかということが不足しているように思う。

【副委員長】 全体として受け入れられないと感じた。

【委員】 小学校に関わる立場でいうと、子どもという対象が多く取り上げられていることはよいと思う。ただ、補足的に捉えられている印象がある。行政としては子どもに直接的な関わりがあるので、子どもに対する期待や、それに対応する考え方が示されるとよりよいと思う。

【委員】 方針2が気になった。表現に触れられることはよいと思うが、創造や表現の自由さを知っている人は自分なりに活動していると思う。広げようとするのであれば、関心のない人たちに、楽しむための土台をつくるのが大事なのではないかと思う。

【副委員長】 知的障害、身体障害のある方にバレエを体験する機会をつくっているのだが、そういった経験が、体験した人の力を引き出すことになっていると感じている。

【委員】 そのような土台になる部分をつくることを重視した方がよいと思う。その先の楽しさや自由さは、与えられるものではなくて、自分で感じるものだと思う。

【委員長】 鑑賞や活動をしたい人に場を提供することはよいことだと思うが、文化や芸術は価値を理解されていないように思う。特別な人たちのためのものだと感じられていると思う。文化芸術はスポーツなどと同じように多様な可能性を引き出すものだと思うが、それが理解されていないと感じることがある。

【委員】 「文化」と「芸術」を混合していると思う。また、市民に対する施策なのか、それとも市外に向けた施策なのかも混合している。方針3までは

「芸術」、方針4、5については「文化」なのだと思う。

市民文化会館が市外から集客していることは、ブランドという観点で言えば評価するべきだと思う。市民向けと市外に向けた政策とはうまく区別しながら書き分けた方がよいと思う。

【委員長】 武蔵野市はブランド化はなされていると思う。吉祥寺では、観光振興として様々な取組をやっている。

【事務局】 武蔵野市観光機構を通じて行政も取り組んでいる。

【委員長】 「ブランド化」ではない言葉をつくった方がよいと思う。文化事業団のこれまでの取組は評価されるべきだと思う。確かにまちに対する貢献は大きくなく、市民の利益も多くはないと思うので、改善するべきところはあると思うが、評価できることであるということは伝えていった方がよいと思う。市民文化会館が公会堂よりも優先されたことが、多くは市民にとっては理解できないのではないか。

【委員】 それの説明できないのが、今回策定する方針がなかったことに起因するのではないか。「文化で振興する」という目的を持って施設をつくったのであれば、それが機能しなくなったら直す必要がある。それがないままに文化行政を進めてきたので理解が得られないのだろう。

方針の書きぶりの話になるが、実現したいまちも5つの方針も、いずれも同じような抽象度で書かれているので分かりにくのではないか。

【副委員長】 先ほど市民向けと市外に向けた方針という話があったが、武蔵野市が策定するのであれば、やはり市民に向けて発信した方がよいと思う。市民にとっての豊かさが、市外から魅力的に映り、それが結果的に市民の満足度につながることはあると思うが、あくまでも軸は市民目線ということである。

【委員】 市民向けと市外向けの両方でいかなければならないと思う。市民が誇りに思うまちということも触れられるべきだと思う。

【委員】 「文化」と「芸術」の違いは分るような気もするが、交流や市民の活動はそれほどクオリティの高いものなのだろうか。レベルが低いものを「文化」というつもりはないが、「芸術」というようなものである必要があるのかは気になるところだ。

【委員】 「芸術」は、アーティストが創るような専門的な芸術だけでなく、物を創り出すということ自体が芸術である。

【委員長】 交流や市民の活動は、生涯学習や市民活動でも規定しているはずだ。この方針では、これまで規定されていないものを捉えるべきだということを明確にする必要がある。

【V 基本方針の実行について】

- 【委員】 ここで行政だけでなく複数の主体で取り組んでいくという考え方を掲げたいのであれば、冒頭で事業団だけを取り上げるのは構成としてバランスがよくないと思う。
- 【委員】 ここで書かれていることは、行政として、行政以外の主体と一緒にやっていきたいという意志表明なのだろうか。ただ、自分の立場としては具体的に想像できない。
- 【委員】 行政として連携して取り組んでいきたいという趣旨が感じられるものにした方がよいのではないか。
- 【副委員長】 アクターという表現だと市民が取り残されているように感じた。誰が取り組んでいくのか分かりにくい。
- 【委員】 行政の義務が施設整備だけであるように読み取れるのだが、本当にそれだけなのだろうか。行政の役割を、できないと消極的に書くのではなく、積極的に連携していくという考え方を示すべきではないか。後ろ向きに捉えられるような書きぶりは避けた方がよいと思う。
市長の施政方針のなかで、文化芸術都市という言葉が使われているにもかかわらず、「芸術」という言葉が使われていないことは疑問だ。
- 【委員】 ここが最も重要な箇所だと思うのだが、必要なことに言及されていないように思う。
- 【委員】 冒頭で10年間を目途とした方針と言われているにもかかわらず、実施のための計画が明記されていない。また、具体的な実施体制が示されていないことも気になる。財政的な措置を書くことができればよいと思うが、難しいと思うので、少なくともレビューの体制は書いた方がよいと思う。
- 【委員長】 ここが最も重要なところだと思っている。方針として煮詰まっていないところがあるのだと思うが、だからこそ今後のアクションにつながることを示した方がよいのではないか。
一番の問題は、内容が非常に抽象的であることだ。現在の担当職員が異動した際に、ここで議論した内容が本当に引き継がれるのかが心配だ。この委員会に参画するメンバーが自主的に作成した方が、引き継いでもらいやすいものになるのではないかとと思っている。
- 【委員】 この方針を策定にあたって、議会などにどう示すのか。
- 【事務局】 報告事項である。
- 【委員】 武蔵野市は財政的にも豊かであり、市外からも注目されるような動き方をしてもらいたい。吉祥寺があることはブランド力につながっていると思うが、市はそれにあぐらをかいているのかもしれない。
- 【副委員長】 先ほど、武蔵野市は文化がないという意見が出ていた。文化がないとい

う前提に立って、これから文化をつくっていくことを掲げてもよいのではないか。

- 【委員長】** 古くからの歴史のあるまちでは、守っていくものがあるから文化振興は取り組みやすい。一方、武蔵野市では、これから新たにつくっていくことを考えていくのもよいだろう。
- 今日の議論は非常に大事なことに触れられていたと思うので、方針にできるかぎり反映していきたいと思う。

2 事務連絡

(次回日程について)

第7回 2月16日(金) 午後7時～ @武蔵野スイングホール

3 閉会